

令和4年度 第1回  
首里城公園管理体制構築検討委員会

【資料5】事例調査について

## 令和3年度の事例調査（吉野ヶ里歴史公園）

令和3年度は、国と県が一体的に管理する歴史公園の管理体制や防災業務体制の情報収集を目的に事例調査を実施した。

### 【吉野ヶ里歴史公園の選定理由】

吉野ヶ里歴史公園は、国営公園と県が管理する県立公園とが一体的になっていること、及び特別史跡を有した歴史公園であることから、首里城公園との類似点がある。一方で、運営維持管理に係る発注方法や運営方法において相違点もみられるため、その実態や運用状況の把握を通じて、首里城公園の指定管理者制度の改善点を見いだす。

### 【調査概要】

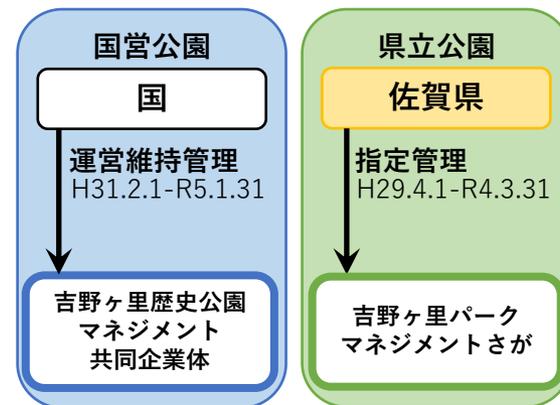
調査対象：国営海の中道海浜公園事務所 歴史公園課 ほか

調査項目：異なる事業者間の連携方策、公園内の複数の管理施設の情報共有や連携状況

調査方法：現地調査、担当者へのヒアリング

### 【管理運営状況の概要】

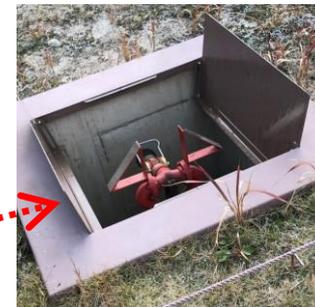
- 国営公園の運営維持管理業務の受託者と県立公園の指定管理者が同一執務室内で勤務している
- 国営公園・県立公園合同で朝礼を実施
- 公園関係機関による「吉野ヶ里歴史公園管理運営連絡会議」を定例（月1回）で実施
- 国営公園・県立公園合同のセンター会議を定例（週1回）で実施
- 管理センターに園内情報を集約化している



吉野ヶ里歴史公園の管理運営状況



主祭殿 放水銃 設置状況



放水銃(水圧で自動立上がり) 2

## 令和4年度の事例調査の考え方（案）

令和4年度は、首里城公園と利用形態が類似している大規模施設において、避難誘導のあり方や訓練方法等の事例視察調査を行う。

### 【事例先の選定ポイント】

- ・火災前の首里城公園の入園者数等を考慮（入園者数280万人/有料区域170万人（H30年度））
- ・多様な利用者を想定した避難誘導や情報発信のソフト対応の他、避難訓練等の実施例を考慮

### 【調査の視点】

- ・火災だけでなく、風水害や地震も想定した避難誘導のあり方
- ・外国人や障害者対応等、多様な利用や場面を想定した避難訓練の実施の方法

## ■事例先候補（例示）

### 世界遺産の避難訓練の事例

#### 中尊寺（岩手県）

来場者数：11万人（H30年度）

- ・世界遺産「平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－」の構成資産のひとつ。
- ・2020年の文化財防災訓練では、消防署や寺の消防隊、自主防災組織などから400人が参加。消化活動や火災防御のほか、重要文化財の搬出や、外国語による観光客の避難誘導が行われた。

### 被災後の対策強化の事例

#### 熊本城公園（熊本県）

来場者数：210万人(R1年)

- ・「熊本城復旧基本計画」にて、総合的な安全・防災対策が検討されている。
- ・2021年の総合消防訓練にて、ドローンを活用した状況確認（延焼や逃げ遅れた人などの状況）の訓練が行われた。

### ソフト対応の事例

#### 大阪城公園（大阪府）

天守閣来場者数：218万人(R1年度)

- ・大阪城パークマネジメント共同事業体が一体的に管理運営を実施。
- ・天守閣に外国語放送アプリを導入し、多言語対応を図っている（USENおもてなしキャスト）。
- ・大阪市消防局が、プロジェクトンマッピングを活用した消防訓練の実施をR4年1月に予定していた（コロナの影響で中止）。